

平成19年度中間評価結果（平成19年12月）

〔研究開発課題名〕 シームレスな位置情報検出を実現する高精度角速度センサチップの研究開発

〔委託機関名〕 株式会社国際電気通信基礎技術研究所

項目	評価 ランク	所 見	再評価 ランク	再 所 見
総合 所見	A	<p>(技術)</p> <p>研究開発プロジェクト全体として、目標がほぼ達成され、所期の成果があがっていると考え。技術の先端性、独自性も極めて高く、学術面からも高く評価される。半導体センサチップ開発において若干の遅れが見られるが、解決すべき課題と解決方針が明確になっており、残された研究開発期間で目標を達成することは可能であると思われる。</p> <p>一方で、検討中の2つのチップ形態について、真に実現すべき形態と実現可能性の点から開発内容を精査し、重点的にマンパワーをつぎ込むことによって、より効率的に研究の進捗が図られると思われる。</p> <p>本研究開発対象である半導体角速度センサチップの技術自体が独自のものでありかつ他の追随を許さないものであるため(このことは、光ジャイロの権威のMIT教授などとのディスカッションを通じても確認されているとのことである)、成功の可能性は非常に高いと思われる。中間報告段階において、半導体角速度センサチップの開発に向けて順調に成果があがっている。特に、理論的な解析により、それまで知られていなかったロックイン領域の存在を導出し、その問題をキャビティ形状により解決できる点を発見している点、さらに、新たにガウシアン光学法によるモード計算により設計の正確性を向上するとともに、この新理論をS-FOGへも適用するなど、今後の作製水準の飛躍的な向上につながる発見に加えて、学術的にもすばらしい成果であると考え。このように理論解析的な土台をしっかりと構築した上での着実な改良をこれまでどおり進めることにより、成果はさらに確実に上がるものと思われる。つまり、今後のさらなる改良など、さらに優れた成果への期待も高い。</p>	-	<p>(技術)</p>
		<p>(事業化)</p> <p>と が半導体チップの製造を、 が最終製品であるジャイロセンサの組み立て・販売を担当することで、「超小型」「高精度」「安価」なジャイロセンサを販売する計画であり、 はそれぞれ当該市場において一定の実績を有している。</p> <p>販売製品の市場ターゲットは、「」「」「」及び「」と多岐にわたり、各市場において一定の市場シェアを有する企業と連携することで一定の収益が期待される。</p> <p>また、 の改正の大きな柱の一つである取得機能を提供することが可能であり、既存市場に加えて新規市場の開拓による更なる収益向上の可能性をも有している。</p> <p>本製品は、従来非常に困難と考えられていた半導体をレーザ媒質とするリングレーザジャイロが実現できることを世界で初めて実証した研究成果を活用したものであり、製品としても有望である。</p>		<p>(事業化)</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。